

地歴公民 (地理)

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

記述式、論述式、選択式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

大問4題で、自然環境、資源と産業、国家群、地誌という出題構成である。各大問に3～4問の論述問題が含まれ、論述問題のウェイトが大きい。また、図表を使用した問いが多い。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

2020年度#1名大入試オープン問題I問3で、Iの問2の三角州の形態の説明のうち、鳥趾状三角州について出題した。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述	世界の大河川の三角州	世界の4つの河川 (ミシシッピ川、ナイル川、ガンジス川、長江) の河口部の衛星画像による都市名の記述問題のほか、論述は、三角州の形態とその差異の理由、ナイル川三角州とその周辺の土地利用の違いの理由、ミシシッピ川とガンジス川の三角州における災害、ミシシッピ川三角州の資源と環境問題の4問。衛星画像が読み取りにくく、河川名が特定できなければ論述問題も難しい。三角州の形態の説明はやや難。	標準
II	選択 記述 論述	資源と産業	プランテーション作物統計の国名判定、モノカルチャー経済の課題の論述、穀物の国内消費量の統計による国名判定と日本の穀物消費の変化の理由の論述、ビール工業の立地の仕組みの論述。論述はいずれも定番問題で答えやすい。	やや易
III	記述 論述	国家群	EU、OPEC、ASEAN、NAFTA の構成国、言語と宗教などの記述問題と、論述は ECSC、OPEC、ASEAN のそれぞれの結成理由と NAFTA の取り決め内容の4問。論述問題は解答欄が狭いので、短い字数でポイントを押さえた答案を書く必要がある。	標準
IV	記述 論述	世界の4つの島	グリーンランド、ジャワ島、シンガポール島、モルディブ諸島の名称、属する国名のほか、論述はアネクメーネの意味とグリーンランドがアネクメーネとなっている原因、ジャカルタの都市問題、シンガポールが分離独立した原因、地球温暖化がモルディブに与える影響の4問。論述問題はいずれも書きやすい。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

地歴公民_(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 2 / 2

<学習対策>

自然、社会、産業などの重要テーマについて、教科書レベルの知識をもとに分布図や統計表を読み取らせて論述させる問題が中心である。そのため、地理用語や地名とその地図上の位置などの地理の基本的な知識だけでなく、自然は成因から、社会・産業は背景から説明できるような地理的見方・考え方を身につける必要がある。教科書をよく読みこなし、参考書などで補足しながら、地理用語や地理的事象を100～200字程度の文章で説明する練習を繰り返し行うことが効果的である。今年は描図問題と地形図の読図は出題されなかったが、描図問題は、グラフの作成や地図への記入などのほか、白地図や地形図の作成なども出題され多彩であるので、地図帳をよく見ておくとともに過去問の研究もしておくとい。地形図読図は、難易度も高いことが多いため、過去問を見て傾向を把握し、対策を行っておきたい。時事問題も出題されたことがあるので、機会があれば新聞やテレビのニュース特集などを見て、世界で起こっている出来事や問題などに興味・関心を持っておこう。